

Q&A KA2.1

- Q 本製品以外に準備する機器や消耗品は？
- A ルミノメーター、ボルテックスミキサー、測定用プレート（培養用プレート）、マイクロピペッター、滅菌水（ATPフリー水）など。
- Q 検量線作成は必要ですか？
- A 不要です。測定値の相対比較を行います。
- Q 培地を他測定に使用したいので除去しても構いませんか？
- A 新しい培地を添加すればATP測定できます。操作性を優先し、培地存在下での測定に最適な仕様になっています。
- Q 試薬の凍結融解は繰り返しできますか？
- A 凍結融解5回まで最大発光量は維持されます。最初の融解時に遮光瓶に小分けを推奨します。
- Q 共培養や組織培養にも使用できますか？
- A 細胞数や細胞塊の大きさによりますが、ウェルプレートで作製したスフェロイド細胞と同等ならKA2.1を、それ以上は『組織の』ATP測定キットのご使用をご検討ください。
- Q ES細胞数の測定にも使用できますか？
- A 使用できます。ES細胞塊の大きさによっては、細胞溶解操作を先に行っていただくことをご検討願います。
- Q 検体溶解液はタンパク質アッセイに使用できますか？
- A ATP測定した検体には添加した発光試薬のルシフェラーゼが含まれているため、正確なタンパク質アッセイはできません。
- Q 発光試薬の調液後の保管条件は？ 保存期間は？
- A 調液後は-80度保管で、速やかに消費してください。試薬の経時劣化はATP標準液を用いてご確認ください。
- Q 発光試薬に含まれるルシフェラーゼのオリジンは何でしょうか？ カルタヘナ法に準拠していますでしょうか？
- A 北米産ホタル由来のルシフェラーゼを発光酵素として利用しています。酵素とその製法はカルタヘナ法に準拠しています。
- Q 発光試薬添加の操作で重要なことは？
- A 試薬添加時にエアの巻き込みを抑えること、試薬添加から発光測定までの時間を統一することにご留意ください。
- Q シングル（キュベット）測定できますか？
- A 測定可能ですが、本製品はウェルプレート測定の仕様です。製品特長である簡便/迅速の操作性が活かされませんことをご了解ください。